

道北地域の景気の基調判断を据え置きました

皆さん、いつも、このサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。早いもので、今年も、もう 1 か月が経ちましたね。幸先はいかがでしょうか。道北地域は昨年を上回る大雪ですが、冬寒く、夏暑いのは景気（個人消費）にとってはプラスといわれてきました。今年はどう出てくるのでしょうか。

さて、2月9日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月の表現を据え置きました。全道の平均的な姿から比べると、やや低空飛行している感は否めないものの、住宅投資を、先月までの「大幅な減少が続いている」から「下げ止まりつつある」に上方修正しました。ただ、公共投資を、「大幅に増加している」から「増加のテンポが緩やかになっている」に下方修正しましたので、この1月～3月および先行きに関しては、「持ち直しの動き」がどこまで広がっていくか慎重に見極めていく必要があります。

1. 建築確認申請床面積（居住用）からみた住宅投資が、前月（昨年 11 月の計数）1 年ぶりにプラスに転じたあと、当月（同 12 月の計数）は 2 か月連続してプラスとなりました。それまでかなり冷え込んでいましたので、水準がとても低く、本格的な回復には至りませんが、住宅投資に関しては、漸く「下げ止まりつつある」状態に転じたと判断しています。
2. 一方、公共投資の現状および先行きについては慎重にみておいたほうがよさそうです。今月入手可能な最新データ（昨年 12 月の計数）は、不需要期とはいえ伸び率が一桁台に低下しました。この先、今年度第一次補正予算の発注が一巡しつつある中、第二次補正予算がどの程度執行されるか、注意深く見守っていく必要があります。また、来年度予算では大幅に削減される予定ですので、先行きについては、慎重にみておいたほうがよさそうです。
3. 建築確認申請床面積（非居住用）からみた設備投資は、旭川市では大幅に伸びましたが、全体では大幅に落ち込みました。先行きなお不透明感が強い状況下で、設備投資を必要最小限度に止めようとの動きもあり、水準は依然として低い状態です。ただ、12 月短観結果から窺われる設備投資はやや強めに出ていますので、引き続き「持ち直している」と判断していますが、強弱入り乱れた状況ということでしょう。

平成 22 年 2 月 9 日

尾家 啓之